

審査の結果の要旨

氏名 中島達雄

原子力は我が国の電力の約 3 割を賄っているにも拘らず、社会的受容性は低いとされている。その原因の一つにマスメディアの過剰誇大報道があるという指摘がある。本論文は、原子力事故・トラブルに対するマスメディア報道の状況を調べ、そのような報道に至るマスメディア内部の事情を分析し、原子力関係者とマスメディア双方の課題を抽出したものである。

第 1 章は研究の目的について述べている。このような研究はマスメディアにとって科学ジャーナリズムのあり方を問い直すきっかけとなり、原子力関係者の広報担当者にとっては情報発信の改善に役立ち、マスメディアの受け手にとってはメディアリテラシー向上に役立つとしている。

第 2 章は研究の背景と先行研究をまとめている。過去に原子力報道を取り上げた研究は多いが、量的に過剰報道かどうか、質的に誇大報道かどうかの定義・判断基準を明確にしたものはない。ニュース価値の形成においては各メディア間の相互作用が一定の役割を果たしており、それを踏まえた上での基準作りが考えられるとしている。

第 3 章は事故・トラブルの一面報道回数の調査方法と結果を述べている。原子力 9 事故と福知山線脱線事故の死者数や国際評価尺度等を踏まえた上で、それぞれの一面、一面トップ、横見出し一面トップ（積極的一面トップ）、2 段以下の見出し記事としての掲載回数を全国紙 4 紙について数えている。その結果、柏崎刈羽地震被災報道については、積極的一面トップは少ないものの、JCO 臨界事故や福知山線脱線事故並みの扱いで、過剰誇大報道だと断じている。柏崎刈羽地震被災報道に関する報道関係者のコメントも分析した後、なぜ過剰誇大報道となったのかについて、地震動の事前の想定の高さの追及、国や電力会社への不信感その原因だと分析している。

第 4 章は事故報道が過剰誇大となる一つの理由である他のニュースとの競合状況について検討している。美浜 3 号機死傷事故は同時期にオリンピックの開催が、東京電力トラブル隠しでは首相訪朝やノーベル賞その他が、美浜 2 号機伝熱管破断事故では湾岸戦争があり、他のニュースの少なかった柏崎刈羽地震被災との違いを分析している。さらにその年の十大ニュースとも比較照合し、柏崎刈羽地震被災は一面報道回数が多い割には十大ニュース内の順位は低いこ

とを明らかにしている。

第5章は柏崎刈羽地震被災のマスメディア報道の詳しい分析である。その結果から、一紙の報道がニュース価値を増幅させたことや、古い情報をリサイクルした記事、他紙へのお付き合い記事、地元発の記事の優遇があったことを明らかにしている。

第6章は原子力事故報道におけるマスメディア間の相互作用の分析である。特ダネとその追従事例、一紙の大きな扱いから始まる増幅事例、同種事故にも拘らず扱いが変わる事例、共通して大きく報道される事例の4類型に分けて細かく分析し、原子力関係者側の要因、マスメディア側の要因を述べている。

第7章は結論で、以上述べてきたことをまとめるとともに、過剰誇大報道を防ぐために原子力関係者が心がけるべきことを提言し、さらにマスメディア側の問題点すなわち報道を自己検証する仕組みの欠如を指摘している。

以上のように、本論文は原子力報道の問題点についてマスメディアの内側からも含めて要因分析したもので、原子力の社会的受容性の向上、そして工学の進展に寄与するところが少なくない。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。